「発達障害」との向き合い方

信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室
附属病院子どものこころ診療部
本田秀夫

看護職・介護職が発達障害の人を意識するのはどんなとき？

- すでに発達障害と診断されている人を看護・介護するとき
- 「発達障害かどうか診察してほしい」という患者と接するとき
- 看護・介護している人が発達障害かもしれないと思ったとき
- 職場の同僚に発達障害の特性があるとき
- プライベートの知り合い
- 家族
- 自分

神経発達症群（DSM-5）

- 知的能力障害群
- コミュニケーション症群
- 自閉スペクトラム症
- 注意欠如・多動症
- 限局性学習症
- 運動症群
- チック症群
- 他の神経発達症群

3

知的能力障害（知的発達症／知的発達障害）
Intellectual Disability（Intellectual Developmental Disorder）

概念，社会性，実用性の領域における知的機能と適応機能の両方に欠陥がある。

A. 論理的思考，問題解決，企画，抽象的思考，判断，勉強，経験学習などの知的機能の欠陥

B. 個人の自立と社会責任に関する発達および社会文化的標準に達しないほどの適応機能の欠陥

C. 発達期の発症

4

限局性学習症／限局性学習障害
Specific Learning Disorder（SLD）

A. 介入を受けても6か月以上持続する学習と学力を用いることが困難
   1. 読字が不正確あるいは遅い
   2. 読んだことの意味理解が困難
   3. 書字が困難
   4. 書いて表現することが困難
   5. 数の理解や計算が困難
   6. 数学的思考が困難

B. 苦手な学力は生活年齢から期待されるより十分に低く，学業，職業成績，日常生活を有意に妨げる

C. 学齢期からみられるが，学力への要求が本人の能力の限界を超えるまで明らかにならないかもしれない

D. 知的能力障害，視覚や聴覚の異常，他の精神神経障害，心理社会的逆境，言語の熟達不足，不適切な教示では説明できない

注意欠如・多動症／注意欠如・多動性障害
Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder（ADHD）

A. 機能または発達を妨げるような不注意および／または多動・衝動性
   1. 不注意
   2. 多動および衝動性

B. 症状のいくつかは12才より前に出現

C. 複数の状況で基準が当てはまる

D. 対人・学業・職業の機能を妨げたり質を低下させている明らかな証拠がある

E. 統合失調症などの経過中のみに見られるものではなく、他の精神障害でよりよく説明できるものでもない（例：気分障害，不安症／不安障害，解離症／解離性障害，パーソナリティ障害，物質中毒または離脱）

自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害
Autism Spectrum Disorder (ASD)

A. 社会的コミュニケーションおよび対人的相互反応の持続的な欠陥
(1) 相互の対人的-情緒的関係の欠落
(2) 対人的相互反応で非言語的コミュニケーション行動を用いることの欠陥
(3) 人間関係を発展させ，維持し，理解することの欠陥

B. 行動，興味，活動の限局された反復的な様式（以下の少なくとも2つ）
(1) 常同的または反復的な身体の運動，物の使用，または会話
(2) 同一性への固執，習慣への頑ななこだわり，言語／非言語的な儀式的行動様式
(3) 強度や対象において異常なほど，きわめて限定され執着する興味
(4) 感覚刺激への過敏さまたは鈍感さ，または環境の感覚的側面への並外れた興味

C. 症状は発達早期に存在（対人的要求が本人の能力の限界を超えるまでは明らかにならないか，学んだ処世術で隠れるかも）

D. 症状は社会的，職業的，他の重要な領域で臨床的に意味のある障害を引き起こす

E. 知的能力障害（知的発達症）または全般的発達遅延では説明できない。知的能力障害としばしば併存し，併存診断するのは全般的な発達レベルよりも社会的コミュニケーションが低いとき

感覚の特徴

視覚的な情報に注意が強く引かれやすい

さまざまな感覚過敏／鈍磨

感情の特徴

予定調和をこよなく愛する

想定外の事態によって感情が激しく揺さぶられる

人情では慰められない

苦手な認知機能

マインドリーディング（他者の考えを推察すること）

イマジネーション（視覚化して想像すること）

記憶の特徴

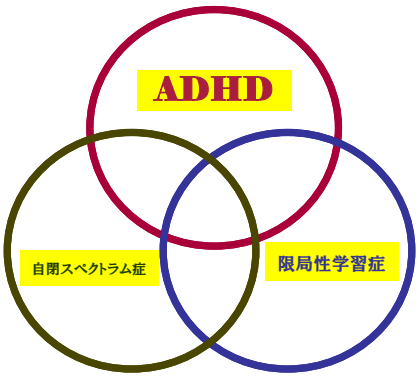
興味があることは，細部にいたるまで記憶できる

一度記憶すると，なかなか忘れない

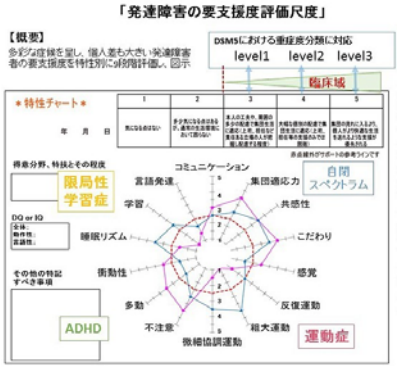
不快な記憶や辛い記憶をフラッシュバックしやすい

神経発達症群の診断基準の課題

- 児童期の他覚的な行動病理を中心に定義されている
- 社会生活上の支障の有無が診断基準に含まれている
- 内的な精神病理はほとんど定義に含まれていない
- 神経発達症同士の重複診断が捉えきれていない
- 症状/特性の継時的推移については述べられていない
- 二次的な併存症と本来の特性との区別が曖昧である



発達障害は，しばしば重複する



http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/events_news/department/ningen_kankyou/news/2016/160413_1.html

「発達障害の特性別評価法（MSPA）」

発達障害本来の特性とそうでないもの

本来の特性

- 対人関係・コミュニケーション・こだわり・感覚の異常・活動のパターン化 （ASD）
- 多動・衝動・不注意 （ADHD）
- 読字・書字・計算 （SLD）
- 粗大運動・微細協調運動 （DCD）

本来の特性ではないもの

- 感情・情緒の変動

小児期から成人期にかけての発達障害特性の変化

- 就学後に知能が大幅に上昇する症例は稀である
- 自閉スペクトラム（AS）の対人行動の質的異常は，軽減するがゼロにはならない
- ASの興味の限局やこだわり行動（RRB）は，形態や様式を変えながら持続する
- 注意欠如・多動（ADH）の多動・衝動性は，軽減するがゼロにはならない
- ADHの不注意症状は，幼児期・学齢期より青年期・成人期の方が問題となりやすい

発達特性と育ち方

- 発達特性は生まれつきであり，育て方が原因ではない
- でも，成人期までにどう育つかは，育て方次第

育ち方の4タイプ

- 特性特異的教育タイプ
- 放任タイプ
- 過剰訓練タイプ
- 自主性過尊重タイプ

児童期に発達特性に気づかれなかった人たち

- 身体症状症，不安症，強迫症，適応障害，気分変調症，複雑性PTSD，解離，摂食障害，ゲーム・インターネット・ギャンブル等への依存など，多彩な精神症状や行動の問題を呈する（いわゆる「二次障害」）
- これらの精神症状を主たる問題として経過を追っているうちに，背景にあるわずかな問題として発達特性が浮かび上がってくることもある
- 本人が発達障害ではないかと思って受診する場合でも，生活の支障が長期間続いていることによる二次障害を伴っていることが多い

発達障害の特性があると判断するとき

1. その人の個性を最も説明しやすいのが，発達障害の特性であるとき
2. その人の個性を最も説明しやすいのは発達障害以外の特性であるが，よくみると発達障害の特性もみられるとき

発達障害と診断するとき

1. その人が社会不適応の状態にあり，その主たる要因が発達障害の特性によるとき
2. 社会不適応の主たる要因が複数あり，そのうちの1つが発達障害の特性であるとき
3. 社会不適応の主たる要因は他にあるが，発達障害の特性に配慮することによって問題の改善が促進されるとき

自閉スペクトラムの人たちの選好性と過剰適応

選好性（preference）の違い

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
岩尾	6	5	9	3	10	3	5	8	49
後藤	5	4	8	7	11	7	6	9	57
又吉	12	4	5	3	8	6	10	7	55
綾部	11	12	5	4	8	5	9	9	63
原西	8	6	9	4	6	12	13	7	65
藤本	10	2	7	9	6	9	5	8	56

コミュニケーションの目的

AS的コミュニケーション

情報を交換することが目的

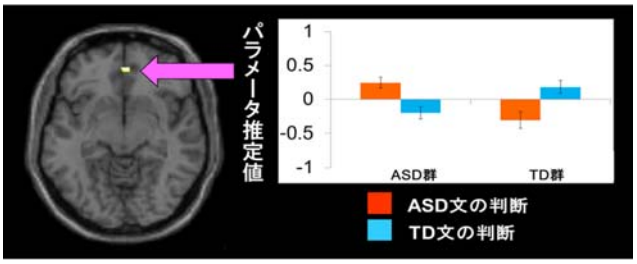
興味のない話題では，会話の必然性がない

非AS的コミュニケーション

コミュニケーションをとること自体が主たる目的

会話を維持するために話題を仕入れることもある

→ **正常と病気ではなく，スタイルが多数か少数かの問題**

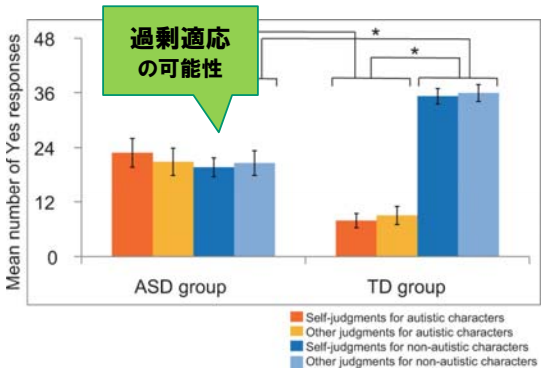


ASD群がASD文を判断し，TD群がTD文を判断する際に，腹内側前頭前野が有意に活動しました。

（京都大学のウェブサイトより引用）

Komeda H et al. Soc Cogn Affect Neurosci 2014;scan.nsu126

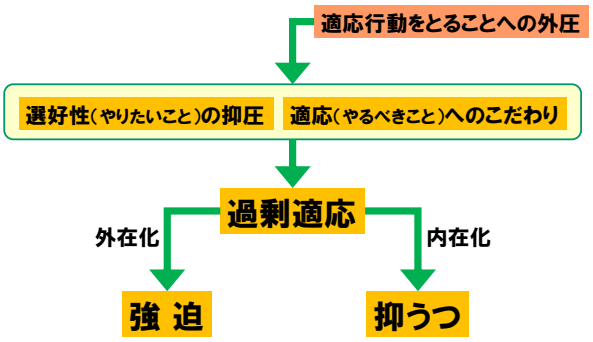
Behavioral results for self- and other judgments.



Komeda H et al. Soc Cogn Affect Neurosci 2014;scan.nsu126

© The Author (2014). Published by Oxford University Press.

Social Cognitive and Affective Neuroscience



「こだわり→過剰適応→二次障害」の連鎖

症例B：45歳女性（1）

周生期にとくに異常はなし。乳幼児期に発達の遅れを指摘されたことはなかった。4歳のときに幼稚園に入園してから大学を卒業するまで，集団生活においてトラブルは一切なかった。言語発達は早く，就学前から平仮名，片仮名，数字の読み書きができ，読書が好きで暇があればいつも何か本を読んでいる子どもだった。ままごとや人形遊びが好きでなかったので，小学生の頃は女子よりも男子と遊ぶことの方が多かった。幼児期からきれい好きで，手を洗わずにお菓子などを手でつまんで食べることを嫌がった。揺れに弱く，遠足でバスに乗ると必ず気分が悪くなり，嘔吐することもしばしばあった。

症例B：45歳女性（2）

中学，高校では文芸部に入り，文学作品を広く読み漁った。文学について語り合う友だちが数人いたので，疎外感や孤立感を感じることはなかった。しかしクラスの中では，広く交友を持つタイプではなかった。話しかけられれば明るい表情で受け答えはできた。成績がよく，授業のノートも真面目にとっており，クラスメイトに頼まれると快くノートを貸していたので，一目置かれる存在であった。

大学の文学部を優秀な成績で卒業し，一般企業で事務の仕事をしていた。同期の女性社員たちが恋愛の話や人の噂話をするのに付き合うことはあったが，自分からそういった話をすることはあまり好きではなかった。

症例B：45歳女性（3）

大学生のときに参加していた合唱サークルで知り合った男性と25歳のときに結婚し，退職した。26歳のときに女児を出産した。子どもをとても可愛がり，育児を生きがいに感じていた。子どもと遊ぶのは好きだったが，人形を使ったごっこ遊びでは，即興で声色を変えて役割を演じるのは好きではなかった。公園で知り合った「ママ友」や，小学校のPTA活動で知り合った他生徒の母親で，数名は気の合う友だちがいた。しかし，さまざまな性格の人たちがいる場に行って幅広く対人交流するのは疲れるので，必要最低限にとどめていた。

症例B：45歳女性（4）

子どもが大学に入学し，子育てが一段落した頃から，学習塾の事務のパートを始めた。仕事ぶりは着実でミスがほとんどないため，すぐに職場で信頼されるようになった。当初は週2回程度だったのが，頼まれてフルタイムで働くようになった。毎日勤務するようになると，職場の同僚たちの人間関係に悩むようになった。女性の多い職場で，昼食を数人が一緒に食べるのだが，他の人たちが話す話題に全く興味を持てない。たまに自分に興味のある小説やドラマの話になるとある程度雄弁に話に参加するが，それ以外の話題では黙っていたところ，同僚から「興味がある時とない時がずいぶんはっきりしてるね」と指摘された。

症例B：45歳女性（5）

同僚にもいろんな人がおり，時間にルーズな人や収納が雑な人がいると，気になって仕方ない。しかし細かく指摘し過ぎると相手も気を悪くすると思うと，どのくらいまで指摘するべきなのかで悩んでしまう。こうしたことで家に帰ってからも考え込むことが増えてきた。フルタイムになってから半年ほどした頃から，夜中に頻繁に目が覚める，朝起きるのがつらく頭が重い，「仕事に行かねば」と思うとつらくて涙が出てくる，土日も疲れてしまい買い物も億劫である，などの症状が出現してきた。心配した夫の勧めで精神科クリニックを受診し，基盤にASの特性のある適応障害と診断された。

症例B：45歳女性（6）

診断を聞いてからASに関する本やインターネット情報を調べ，自分に当てはまるところがたくさんあると感じた。「ASの人たちは対人関係を維持することがうまくできない」と知り，クリニックで「一般の人たちは話題の内容よりも会話を途絶えさせないという目的を優先することもあるんですよ」と聞いて，驚いた。会話とは情報を伝え合うためのもので，情報がなければ黙っていても何も問題を感じていなかったのだ。逆に昼食時の同僚の会話などで，話題に出たことについて「今度やってみよう」などと言っているにもかかわらず，その後そのことをやろうとする気配がない人たちが多いことを不思議に思っていたが，その謎が解けた気がしたという。

症例B：45歳女性（7）

きれい好きなところは今も変わらない。アルコール入りの小型の除菌スプレーをいつも持ち歩いている。折りたたみ傘など，万が一のときに必要と思われる小物は，いつも持ち歩いている。揺れる乗り物は今も苦手である。辛いものは激辛でも全く平気だが，お粥のようにドロッとした食感の食べ物を口に含むと瞬間的に吐き気を催す。しかし，お粥を食べることは滅多にないため，とくに日常生活で大きく困ってはいない。

発達障害の人たちの過剰適応

- 発達障害の人たちにとって現代の日本は，集団のなかで息をしているだけでも，相当なストレスを感じる社会。
- 一見ふつうに振る舞うだけで，すでに過剰適応していると言っても過言ではない。

成人期の発達障害支援

学童期までに診断され，継続的な支援を受けた人

- 成人期も残存する発達特性に配慮した支援が中心
- シームレスに教育・福祉・労働が連携できる可能性がある

思春期以降にはじめて診断された人

- 二次的な問題への対応が中心
- 医療も含めた支援体制づくりからスタート

発達障害者の就労

「唯一の正解」はない

柔軟な発想で「適材適所」を

就労支援を要する発達障害の人

- 仕事での困難はありながらも就労継続している
- 高校，専門学校，大学生で就職を目指している
- 離職，転職を繰り返している
- 長期間就労していないか，離職している

「合理的配慮」

障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し，又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって，特定の場合において必要とされるものであり，かつ，均衡を失した又は過度の負担を課さないもの

－障害者の権利に関する条約第2条

合理的配慮は，当事者の希望が前提

- 本人が自分の特性に気づいていないのに合理的配慮をするのは，筋違い
- まずは，合理的配慮の検討ができる可能性を本人に示し，本人の意志の確認を

本人に合理的配慮の希望がない場合

- 合理的配慮はしない
- 感情的・報復的対応はしない
- 配慮なしに業務を行い，データを示す
- 第三者の意見をもらう

発達障害の特性に対する自覚

- 他覚的に軽症でも，主観的には特性を強く自覚し，自信が低下する場合がある
- 他覚的に重症でも，主観的には特性をほとんど自覚していない場合がある
- 相談の意欲が形成されていない人は，特性を他者から指摘されると感情的に強く否定する傾向がある

発達障害の特性に他の問題が併存している人たち

- なんらかのストレスやトラウマ体験がある
- 発達障害の特性が感情反応によって修飾される

発達障害の人にとって 能力と収入は比例するとは限らない

能力を活用しても収入につながらない人は，

ためらわずに福祉制度を利用しよう！

会社は学校とは違う

本音

会社が存在し続けなければ，従業員を雇えない
存続するためには，よく働く従業員を雇いたい

タテマエ

ある程度の規模の会社は，一定の社会貢献をすべき
法定の障害者雇用率を満たさないとペナルティがある

社風と特性とのマッチング

特性への配慮が他の社員にとって

お互い様の範囲内 → 通常の就労形態
大義名分が欲しい → 障害者枠の就労
負担が大き過ぎる → 雇用不可

障害者雇用対策（厚生労働省）

企業に対して

一定の割合で障害者の雇用を義務付け
……（障害者雇用率制度）
これを満たさない企業から納付金徴収
多く障害者を雇用する企業に対して調整金支払
必要な施設設備費等に助成
……（障害者雇用納付金制度）

障害者本人に対して

職業訓練
職業紹介
職場適応援助者等
……（職業リハビリテーション）

障害者雇用率制度について

○雇用・就業は、障害者の自立・社会参加のための重要な柱。
○障害者が能力を最大限発揮し、適性に応じて働くことができる社会を目指す。

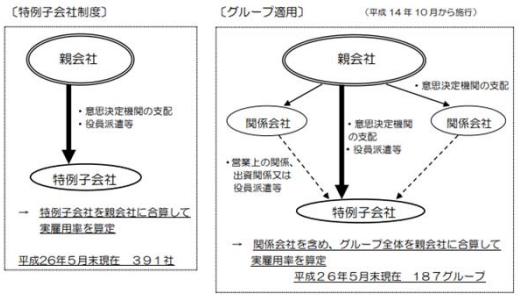
① 事業主に対して、従業員の一定割合（法定雇用率）以上の障害者の雇用を義務付け
民間企業：2．2%　国、地方自治体：2．5%　都道府県等の教育委員会：2．4%

週所定労働時間		30時間以上	20時間以上30時間未満
身体障害者		1	0．5
	重度	2	1
知的障害者		1	0．5
	重度	2	1
精神障害者		1	0．5※

※ 精神障害者である短時間労働者で、①かつ②を満たす方については、1人をもって1人とみなす。
①新規雇入れから3年以内の方　又は　精神障害者保健福祉手帳取得から3年以内の方
②令和5年3月31日までに、雇い入れられ、精神障害者保健福祉手帳を取得した方

② 令和3年3月1日に、それぞれ0．1%ずつ引上げ予定

（厚生労働省ウェブサイトより）



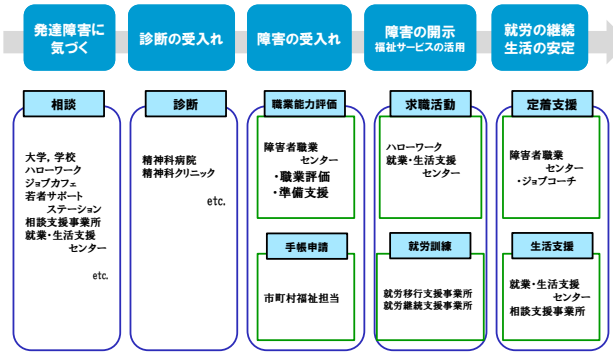
（厚生労働省ウェブサイトより）

「特例子会社」制度とグループ適用

障害者総合支援法における就労系障害福祉サービス

	就労移行支援事業	就労継続支援A型事業	就労継続支援B型事業
事業概要	就労を希望する65歳未満の障害者で、通常の事業所に雇用されることが可能と見込まれる者に対して、①生産活動、職場体験等の活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練、②求職活動に関する支援、③その適性に応じた職場の開拓、④就職後における職場への定着のために必要な相談等の支援を行う。 （利用期間：2年） ※ 市町村審査会の個別審査を経て、必要性が認められた場合に限り、最大1年間の更新可能	通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が可能である者に対して、雇用契約の締結等による就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等の支援を行う。 （利用期間：制限なし）	通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して、就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う。 （利用期間：制限なし）
対象者	① 企業等への就労を希望する者	① 就労移行支援事業を利用したが、企業等の雇用に結びつかなかった者 ② 特別支援学校を卒業して就職活動を行ったが、企業等の雇用に結びつかなかった者 ③ 企業等を離職した者等就労経験のある者で、現に雇用関係の状態にない者	① 就労経験がある者であって、年齢や体力の面で一般企業に雇用されることが困難となった者 ② 50歳に達している者又は障害基礎年金1級受給者 ③ ①及び②に該当しない者で、就労移行支援事業者等によるアセスメントにより、就労面に係る課題等の把握が行われている者
報酬単価	711単位（平成27年4月～） ※ 利用定員が21人以上40人以下の場合	519単位（平成27年4月～） ※ 利用定員が21人以上40人以下の場合	519単位（平成27年4月～） ※ 利用定員が21人以上40人以下の場合

（厚生労働省ウェブサイトより）



発達障害者の就労支援の流れ

社会参加可能性を測る目安

自律スキル

自分にできることは意欲的にやる

できないことは無理しない

ソーシャルスキル

できないことを相談できる

人として最低限守るべきルールを守る

発達障害の人たちへの支援の第一歩

本人が，

- ■ 何らかの問題意識をもつこと
- ■ 信頼できる相談相手にアクセスできること

↑

このような状況を設定することから，支援がはじまる

支援つき試行錯誤

■共感しながら試行錯誤につき合う

■情報提供と考えの整理は行うが，助言は控える

本人の認知様式に合わせた環境調整

- 理解しやすいモダリティ
- 理解しやすい用語と言い回し
- 理解しやすい筋道
- 自分で熟考して判断することの保障
- 意欲を持てるテーマや題材
- 感覚異常への配慮

接し方のポイント

(1) 先に本人の言い分を聞く
(2) 命令でなく提案する
(3) 言行一致を心がける
(4) 感情的にならない
(5) 情報を視覚呈示する
(6) 見えにくいことを言語（書面）で構造化する
(7) こだわりはうまく利用する

身のまわりが片づけられない

実害が及ばない限り，大目に見る

どうしても仕事をためてしまう

優先順位をつけることが得意ではないので，上司がアドバイスを

どうしても時間が守れない

時間厳守は諦めて，仕事の質を重視しよう

頼まれごと，やるべきことを忘れてしまう

大事な項目を厳選したうえで，忘れてしまったときの保険をかけておく

「これがしたい」という衝動を抑えられない

衝動のきっかけになりそうなものを，なるべく排除する

何かに集中しすぎてしまう

結果で評価できる職場に配置する

企画書が書けない

文書作成は最もハードルが高い仕事と割り切る

口頭での指示が理解できない

箇条書きなどにして，本人にわかりやすい伝え方を

悪気はないのに，つい失礼な発言をしてしまう

なぜいけないかを穏やかに論理的に説明する

すぐにテンパってしまう

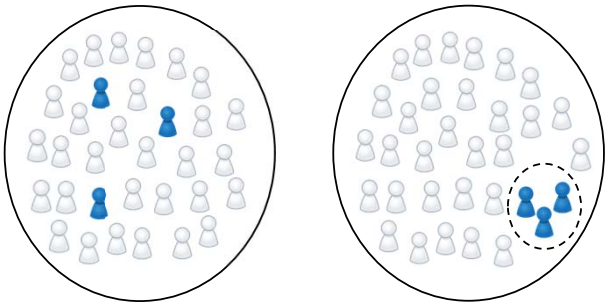
ストレスフルな環境にいないか確かめる

コミュニティケア促進のキーワード

ネスティング（nesting）

活動拠点（nest）となるサブ・コミュニティを計画的に新規作成し，コミュニティの中に入れ込むこと

（本田ら，2009）



分散型　　ネスティング

インクルーシブかつアイデンティティの保障されたコミュニティづくり

知的障害の人たちの余暇活動支援あるある

支援者の気持ち

「ふだん経験できないことを経験させてあげたい」

実際の活動：

外食，ボウリング，バーベキュー，キャンプ

当事者の気持ち

「はじめてやって，楽しかった」

「でも早く戻っていつもやっている楽しいことをやりたい」

発達障害の人たちが，放っておいてもやりたがることは？

鉄道関係

アニメ・漫画

インターネット

ゲーム

・・・支援者がこれらを提案することは，少ない？

鉄友会

月に1回定期的に集まって，鉄道に乗った報告や，自分の好きな鉄道の話を発表します。

実際に鉄道の旅の計画を立て，皆で出かけることもあります。

（旅の様子については，こちらをご覧ください。）

アニメ漫画クラブ

自分の好きなアニメや漫画の話をする場所です。

・最近はまっているアニメや漫画の話

・最近見たアニメ映画の話

・参加したイベントの報告

・聖地巡礼報告

・アニメや漫画のグッズを披露する

などなど、みんなそれぞれ楽しみながら交流しています。

アニメ漫画クラブ初代ポスターです→

支援者の役割

少数派である発達障害の人たちと

多数派向けに構成された社会との

インターフェイス

質　問

同じことを何度説明しても、同じミスを繰り返したり、忘れてしまう人に対して、本人への指導方法としてどのように対応していけばよいでしょうか。

また、どのような業務が適しているのでしょうか。

質　問

発達障害ではないかと疑われる人がいますが、本人には自覚がありません。受診を勧めたいと思うのですが、どの立場のものがどのように勧めていけばよいでしょうか。

質　問

業務を行うには個別の対応が必要となりますが、一緒に働くスタッフがストレスや負担を感じてしまいます。周囲の理解が得られ、お互いに働きやすい職場をつくるにはどのような働きかけをすればよいでしょうか。また、周囲もストレスを抱えない関わりのコツがあれば教えてください。

参考図書

専門家向け

「アスペルガー症候群のある子どものための　新 キャリア教育
－小・中学生のいま，家庭と学校でできること－」
本田秀夫，日戸由刈（編著）　金子書房（2013年）

「子どもから大人への発達精神医学－自閉症スペクトラム・ADHD・知的障害の基礎と実践」
本田秀夫（著）　金剛出版　（2013年）

「発達障害の早期発見・早期療育・親支援」
本田秀夫（編著）　金子書房　（2016年）

「知的障害・発達障害のある子どもの住まいの工夫ガイドブック
－危ない！困った！を安全・安心に－」
西村顕，本田秀夫（著）　中央法規（2016年）

参考図書

専門家向け

「知ってほしい 乳幼児から大人までのADHD・ASD・LD ライフサイクルに沿った 発達障害支援ガイドブック」
齊藤万比古，小枝達也，本田秀夫（編集）
診断と治療社（2017年）

「こころの医学入門: 医療・保健・福祉・心理専門職をめざす人のために」
近藤直司，田中康雄，本田秀夫（編集）
中央法規　（2017年）

「自閉スペクトラム症の理解と支援 ―子どもから大人までの発達障害の臨床経験から」
本田秀夫（著）　星和書店　（2017年）

参考図書

一般向け

「自閉症スペクトラム－10人に1人が抱える「生きづらさ」の正体－」
本田秀夫(著)　SB新書　(2013年)

「自閉症スペクトラムがよくわかる本」
本田秀夫(監修)　講談社　(2015年)

「大人の自閉症スペクトラム」(DVDセット全3巻)
本田秀夫(監修)　NHK厚生文化事業団　(2016年)

「なぜアーティストは生きづらいのか？－個性的すぎる才能の活かし方－」
手島将彦，本田秀夫(著)　リットーミュージック　(2016年)

参考図書

一般向け

「自閉症スペクトラムの子のソーシャルスキルを育てる本－幼児・小学生編」
本田秀夫，日戸由刈(監修)　講談社　(2016年)

「自閉症スペクトラムの子のソーシャルスキルを育てる本－思春期編」
本田秀夫，日戸由刈(監修)　講談社　(2016年)

「ADHDの子の育て方のコツがわかる本」
本田秀夫，日戸由刈(監修)　講談社　(2017年)

「ひとりひとりの個性を大事にする にじいろ子育て」
本田秀夫　講談社　(2018年)

参考図書

一般向け

「発達障害がよくわかる本」
本田秀夫(監修)　講談社　(2018年)

「発達障害－生きづらさを抱える少数派の『種族』たち－」
本田秀夫(著)　SB新書　(2018年)

「最新図解 女性の発達障害サポートブック」
本田秀夫，植田みおり(著)　ナツメ社　(2019年)

「あなたの隣の発達障害」
本田秀夫(著)　小学館　(2019年)